



感染症とたたかう

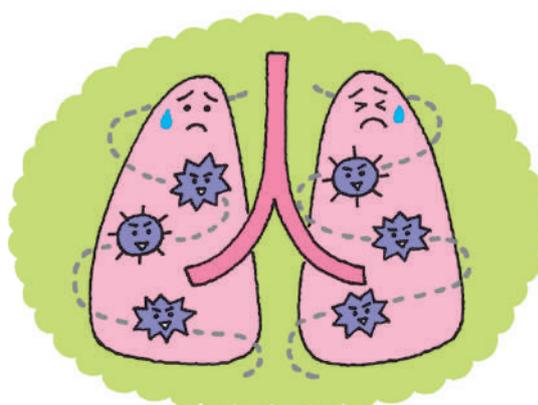
第10号

2016年
9月発行

発行：国立大学法人 長崎大学 監修：長崎大学病院 感染制御教育センター長・教授 泉川 公一
お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4 TEL：095-819-7800（代表） FAX：095-819-7805

● 私たちの暮らしと感染症 ●

長引く咳はマイコプラズマ感染症？ 大人ではこじらせて重症化も



肺炎マイコプラズマによる感染症 幼児期、学童期、青年期に多く

マイコプラズマ感染症は、喉が痛い、咳や鼻水が出る、熱があつて体もだるいといった、風邪に似た症状を引き起こします。風邪と違うのは、こうした症状が数日では治まらず、特に、咳は3～4週間と長く続くことです。

マイコプラズマ感染症は、「肺炎マイコプラズマ（以下、マイコプラズマ）」という細菌に感染することによって起こる呼吸器の感染症です。幼児や学童に多く、また若年者の肺炎の原因として比較的多いものの一つです。1年を通じて発生しますが、冬にやや増える傾向があります。

マイコプラズマに感染すると、2～3週間の潜伏期を経て、まず、発熱や全身倦怠、頭痛などの症

状が現れます。咳は、その3～5日後から始まって少しずつ強くなり、熱が下がったあとも3～4週間続きます。一般的には、痰がからまない、コンコンといった乾いた咳が特徴的ですが、痰が絡む咳も見られます。幼児の場合は鼻水や鼻詰まりが頻繁に見られます。マイコプラズマに感染しても、多くの場合は軽い気管支の炎症（気管支炎）が起こる程度で症状も軽く済み、自然と治るケースもあります。ただし、比較的まれですが、重症化することがありますので注意してください。

かつてわが国では、オリンピックのある年に流行を繰り返すとされ、1980年代では84年と88年に流行しましたが、1990年代以降は大きな周期的流行はありませんでした。しかし、2011年から2012年にかけては全国的に大流行しました。咳が長引くときには、医療機関を受診するようにしてください。



治療の基本は抗菌薬の服用 薬が効かないケースも増加

マイコプラズマ感染症は、自然に治るケースもありますが、基本的には抗菌薬(抗生物質)によって治療します。

ただし、抗菌薬なら何でも効果があるわけではありません。原因となるマイコプラズマは生物学的には細菌に分類されますが、一般の細菌と異なり、細胞壁を持ちません。そのため、日本マイコプラズマ学会の治療指針では、まず「マクロライド系」の抗菌薬を使うことになっています。また最近では、マクロライド系の抗菌薬が効かない「耐性菌」が増えているとされています。マクロライド系薬が有効でない場合は、「テトラサイクリン系」や「キノロン系」という別の抗菌薬に切り替えます。

抗菌薬は7~10日分が処方されます。熱が下がったり咳が止まったりして症状がなくなったと思っても細菌が完全にいなくなっていないこともありますので、医師の指示通り、もらった薬を最後まで飲み切るようにしてください。また、薬が効くかどうか(耐性菌なのかどうか)を確認するため、医師から、数日後にもう一度受診するよう

に指示されることがあります。この場合も、「症状が軽くなったから大丈夫」と自分で判断せず、診察を受けるようにしましょう。

感染経路は飛沫感染と接触感染 長い潜伏期間に人にうつすことも

マイコプラズマは、患者の咳のしぶきを吸い込んだり(飛沫感染)、患者と接触したり(接触感染)することで感染すると言われています。ただし、インフルエンザのように病原体に短時間さらされただけで感染することはあまりなく、家族や友人間での濃厚な接触による感染が多いと考えられています。

マイコプラズマを防ぐワクチンはまだないので、感染を予防するには、感染している人との接触をなるべく避けることが原則です。症状がある場合、家庭では別室で過ごすようにします。マイコプラズマは石けんなどの界面活性剤で感染力をなくすことができるので、手洗いも重要です。うがいや手洗いは、マイコプラズマ感染症だけでなく、インフルエンザや食中毒など、多くの感染症の予防に有効ですから、習慣にしましょう。

なお、マイコプラズマ肺炎は、学校保健安全法の第三種の感染症として分類されています。第三種の感染症による出席停止の期間については「病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで」とされています。明確な出席停止期間は定められていないので、医師の診察を受け、出席の許可が出てから登校するようにしてください。

次号(2016年10月号)では
「インフルエンザ」を取り上げます。